

門司港レトロ観光まちづくりプラン



平成20年7月

北九州市

I 長期計画策定の目的

門司港レトロ地区は、年間 200 万人を超える観光客が訪れる本市を代表する観光地へと成長した。

しかしここ数年、観光客は伸び悩んでおり、今後門司港レトロ地区の魅力をもっと一層向上させるために、現状及び課題を踏まえ、将来展望を見据えた長期計画を策定するものである。

なお、今回の長期計画では、既存ストックを有効に活用した施策を展開するとともに、

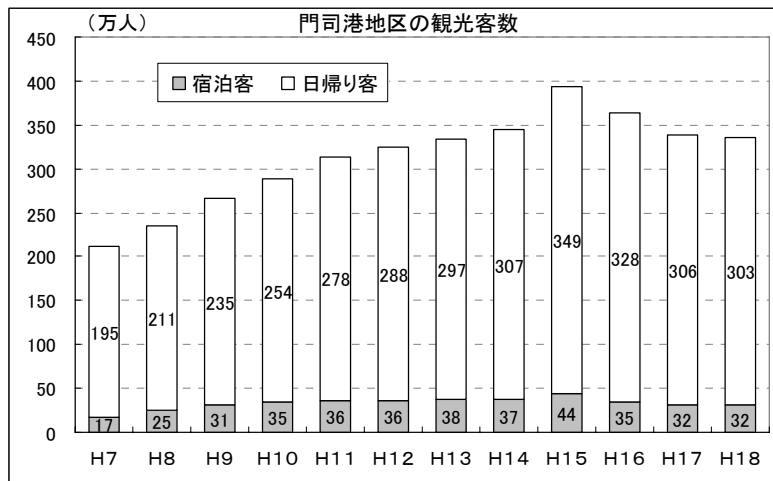
① ハード面に加え、おもてなしなどソフト事業の充実・強化を図る

② 民間事業者の創意工夫やノウハウを活用しながら観光振興を積極的に推進するなどの視点を新たに加えるものとする。

II 門司港レトロ地区の現状

1 観光客数

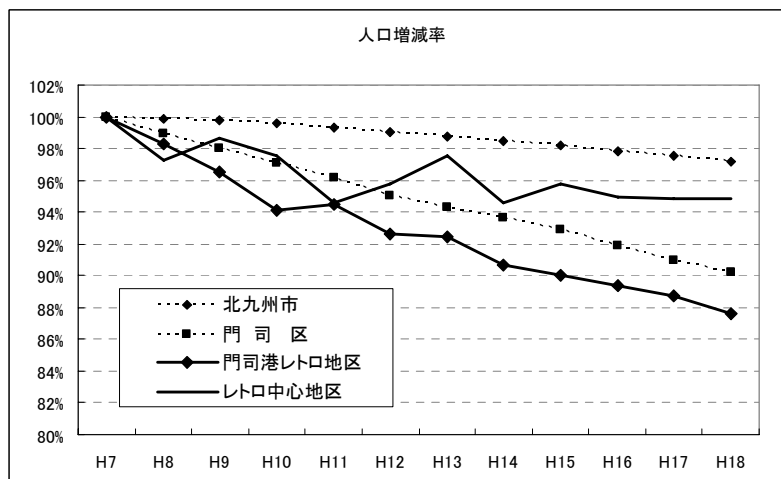
「門司港レトロ地区」の観光客数は、平成 15 年までは増加傾向を示したが、その後若干減少している。しかし近年は下げどまり感が出ている。



2 人口

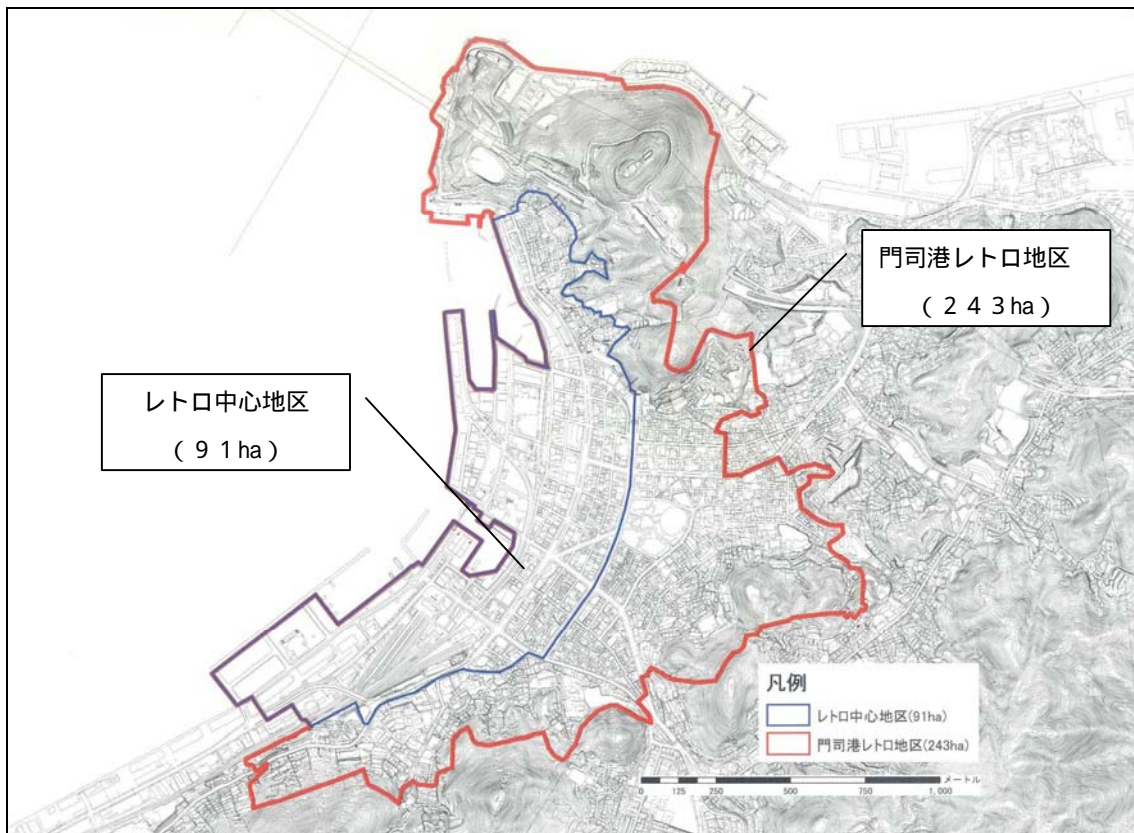
「門司港レトロ地区」の人口推移は北九州市の平均値に比べ減少率が高い状況である。

「レトロ中心地区」においては、近年は横ばいとなっている。



<参考>

統計集計上、レトロ地区と門司港レトロ地区の定義は下図のとおりとする。



Ⅲ 門司港レトロ地区の課題

門司港レトロ地区に関する現状のデータ等をみると、観光客の誘致については一定の成果が認められるが、観光客の滞在時間や回遊性の面では、あまり伸びていない。

また、人口や商品販売額についても、北九州市や門司区の平均値と比較しても伸び悩んでおり、観光振興による事業効果が地域全体の活性化に十分に繋がっていないといえる。

こうした現状を踏まえ、今後、門司港レトロ地区の活性化を推進していくための課題を、次の5点に整理した。

課題1 観光客の増加策

大型観光施設の整備が一段落した平成15年以降、観光客が伸び悩んでいる。

民間活力を導入したハード面の推進、集客イベントの強化等により安定的で持続的な集客を図る施策が求められる。

課題2 回遊性の向上・滞在時間の長時間化

観光客の訪れる場所が第一船だまり周辺にかたよっている。観光エリアの拡大、滞在の長時間化を図るためにも和布刈地区や商店街への回遊性の強化が求められる。

課題3 観光消費額の増加策

魅力ある食の提供、ユニークな土産品の開発など飲食・物販・宿泊機能やサビス機能の充実を図ることにより、観光消費額の増加を図り、地域の活力を高める必要がある。

課題4 地域資源の発掘・伝承

地域の歴史、文化、まちづくりのノウハウを次世代に伝承する環境づくりや、住民参加によるホスピタリティ精神の醸成等が求められる。

課題5 観光と暮らしの活性化

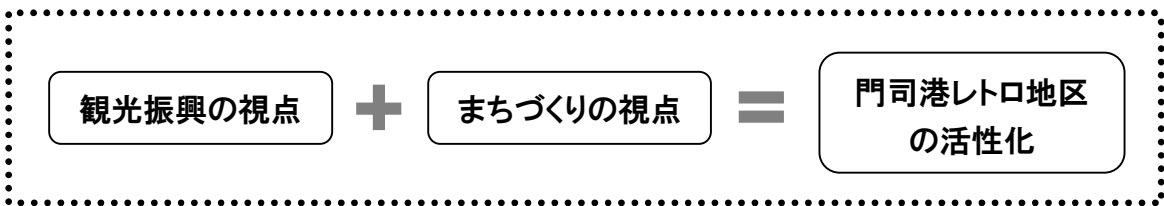
観光客と地域住民との交流を活性化し、観光振興と地域振興が一体となった住みよいまちづくりを推進する必要がある。

IV 活性化の基本方向

1 計画策定に向けての視点

第一期、第二期計画では、歴史的建造物の保存活用や観光施設の整備など、多くの観光客を迎えるためのハード整備を中心とした観光振興に取り組んできた。

今回の長期計画では、観光振興の視点も重視しながらも、「訪れたいまち」を目指すためには「住みたいまち」になるべきであるとの考えから、「観光振興」「まちづくり」双方の視点から、計画づくりを行う。



2 目標数値(目標年次:平成20年度から概ね10年間)

観光振興及びまちづくりの指標として、定量・定性面で以下のように設定する。

まず、観光客数については、5つの課題に対応したハード・ソフト両面からの施策を推進し、過去10年間の伸びを持続させることにより、50%の上昇を目指す。

観光消費額については、定期的な調査により、1人当たりの観光消費額の20%の上昇を目指す。

居住人口については、全市的には減少傾向が予想される中、レトロ中心地区において、10%の上昇を目指す。

商品販売額については、レトロ中心地区において20%の上昇を目指す。

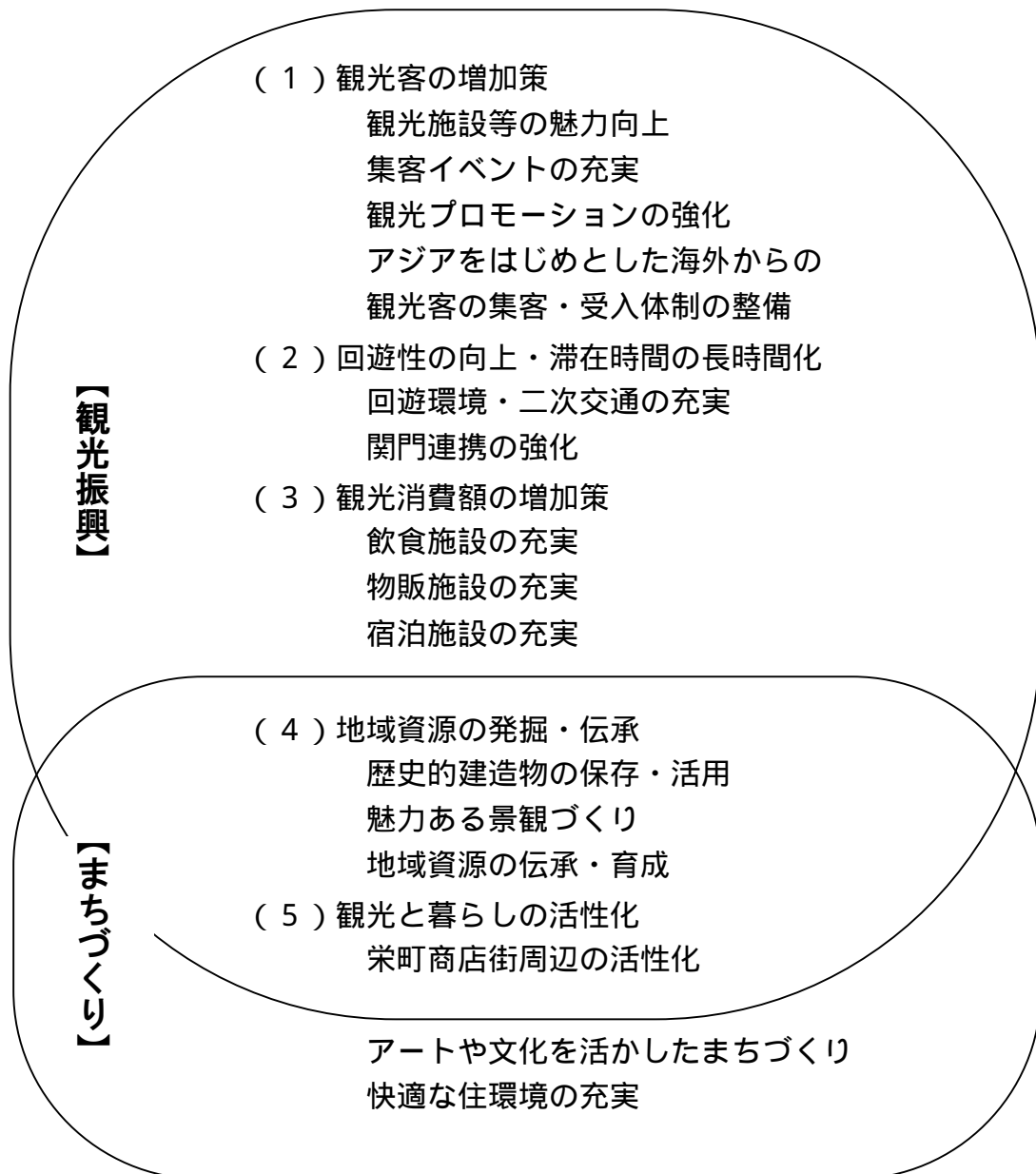
定性的な指標については、定期的なアンケート調査により、来訪・居住の満足度を把握することとし、各々20%の上昇を目指す。

	定量	定性
観光振興	門司港レトロ地区の観光客数 50%アップ 【レトロ地区】(H18:214万人 H29:320万人) 【和布刈地区】(H18:121万人 H29:180万人)	来訪満足度 20%アップ
	1人当たりの観光消費額 20%アップ	
まちづくり	レトロ中心地区の居住人口 10%アップ (H18:4,637人 H29:5,100人)	居住満足度 20%アップ
	レトロ中心地区の商品販売額 20%アップ (H16:112億円 H29:130億円)	

VI 施策の展開

門司港レトロの活性化に向けた5つの課題に対応するため「観光客の増加策」「回遊性の向上・滞在時間の長時間化」「観光消費額の増加策」「地域資源の発掘・伝承」「観光と暮らしの活性化」に取り組む。

具体的な施策については、観光振興・まちづくり双方の視点から、下記の15の戦略に基づき展開していく。



VII 施策の推進体制

長期計画を推進していくため、民間事業者（観光事業者など）、まちづくり団体、行政がそれぞれの役割分担に応じて、計画的に取り組むとともに、それぞれが連携を図りながら具体的な施策を推進していく。

施策の体系(その1)



施策の体系(その2)

